（様式１）

令和4年度　学力向上指導改善プラン

ゆりのき台小学校長　福本　八重歌

学校教育目標	やさしく　かしこく　たくましく ～豊かな自分づくりと共に生きる人間の育成～
推進主体	管理職と主幹教諭、学年主任を中心に学校教育改革推進委員会を設置し、以下の改善プランを策定

学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況（国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む）	国語	〇資料を用いた意図や目的を理解する設問では、全国平均を13ポイント上回り、良好な結果と言える。今後も継続して資料と本文を意図的につなぐ意識、キーワード意識を持たせる学習に取り組むべきであると考える。 ◆目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見つけることに課題がある。複数ある情報の中心となる内容を吟味し、的確に引き出す学習も継続して行う。
		算数数学	〇帯グラフで示された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目と、その割合を記述する設問では、全国平均を12ポイント上回っていることから、表やグラフを読み取る技能だけではなく、それらを多面的に捉えながらその特徴を見つけ出したり、それを言葉で説明したりする力が高まっている。 ◆1つだけの図形であれば公式にあてはめて面積を出したりできるが、複数の図形が組み合わさった場合、図形の構成の仕方を捉えて、底辺や高さを見出すことに課題がある。黒板に掲示する図形の掲示物だけではなく、iPadなどのICT機器を効果的に活用しながら、切ると・つなぐと・展開するとなど豊かにイメージをもちながら図形を捉えていくようにする。
	定期テスト、単元テストなどによる状況（各教科）		◆算数科においては、基本の計算力が身に付いている児童が多いが、文章題での活用や記述に課題のある児童もみられる。 ◆漢字テストでは、習った漢字は書けるが、文章の中で活用する力に課題がある。 ◆基本的な計算に時間がかかる児童や計算のケアレスミスのある子が見られる。
	授業等からうかがえる状況（各教科）		◆意欲的に学習に取り組んでいるが、姿勢保持や集中力を持続できない子がいる。 ◆授業の中でめあてをもって取り組み、学習のふり返り（自己評価）を行うことが定着しているが、めあてに沿ったふり返りになっていない場合がある。 ◆発表時に必要な声の出し方が身に付いてない児童がいる。
学力向上に係る学習習慣・生活習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況		◆「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」の質問に対して、「不安を感じなかった」といった肯定的な回答比率は全国平均を上回っているものの、「不安を感じた」といった否定的な回答比率が高い。iPadを活用して、家庭でも児童が各自で学習が進められるように、学校で使い方やアプリ、ZOOMについて指導を継続する。 ◆「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」と「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して、「参加している」といった肯定的な回答比率は全国・県平均を上回っているものの、「参加していない」といった否定的な回答比率が高い。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、地域での行事が中止になったことも要因として考えられる。今後、地域の方と交流したり、「自分が地域の一員である」と気づけたりできるような取り組みを、総合的な学習の時間などを活用して単元計画を立てていきたい。
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況		◆平成26年度から、児童・保護者のアンケート結果をクロス集計し、保護者の関わりが児童の育ちにどのように影響するのかを分析している。 ◆「あいさつ・地域活動への参加・学校外での読書・清掃・時間意識」を重点的に継続指導する。
校内研究・研修の状況	校内研究の状況		◆「人とつながり、課題解決に向かう子どもをめざして」をテーマに国語科を中心とした研究に取り組んでいる。 ◆新職員体制での研究に対応するために、「ゆりのきスタンダード」を基本から共通確認する場を設定する。
	校内研修の状況		◆年間を通して、国語科授業研究・人権教育・特別支援教育などの研修を計画的に実施している。また、各教科で自主研修を進めている。
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況		◆ゲストティ―チャ―や地域ボランティアの協力を得て、学習の成果をあげている。 ◆コミュニティスクールとして、学校地域運営協議会を核として地域と学校・家庭の連携を図っている。
	小・中における教科連携等の状況		◆保幼小接続カリキュラムについて、さらなる共有化を図る。教師間の交流を密にして、双方にとって有益な交流になるように工夫する。

学力向上に向けての重点的な目標	4月 成果となる目標 （指標となる数値等）	4月 具体的な行動目標 （成果目標達成のための具体的な手立て等）	2～3月 年度末評価 （今年度の成果と来年度に向けた課題等）	2～3月 年度末評価 評価
①基礎・基本の育成を図り、学習意欲を高める	〇学期末の算数や漢字のまとめのテストで9割以上の定着をめざす。 〇研究会アンケートにおいて学びの積み上げに対する肯定的な評価を得る。	A：漢字や計算の定着度を評価し適宜プリント等で補充する。 B：学期末定着度テスト（漢字・計算）を実施し目標到達ラインに届くまで放課後等に補充学習を行う。 C：学習の中に学びをふり返ったり、「見える化」する活動を位置づける。 D：「ゆりのきスタンダードノート編」にもとづくノート作りを継続する。 E：「学び方開き」の授業や研修を行い、学びの連続性を重視する。		
②本に親しむ子の育成を図る	〇子どもアンケートで「学校外でも進んで読書をしている」と答える児童の割合の現状維持（8割以上）をめざす。 〇子どもの読書活動を進めるうえで、環境整備を発達段階に応じて行う。	A：全校一斉読書タイムを継続する。 B：毎朝の10分間読書や毎月23日を「家族読書の日」に読んだ本の題名や感想を読書通帳に記録させる。 C：学年の発達段階に応じた図書を学年フロアの学年図書館に入れる。 D：学校司書や図書委員会と連携して学校図書館の稼働率を上げる。 E：図書ボランティアによる読み聞かせ・ブックトークを継続する。 F：発達段階に応じた環境整備を行い、読書に親しむよう工夫する。		
③豊かな心の育成を図る	〇学校評価アンケート（職員・保護者）や子どもアンケートの「子どもの育ち」（やさしく）の項目で肯定評価8割以上をめざす。	A：「学校いじめ防止基本方針」にもとづき、いじめ未然防止、早期発見・解決のための取り組みを行う。 B：「あいさつ運動」を実施し、進んであいさつできる児童をめざす。 C：「ビーミーっ子の歌」の歌詞や学校教育目標をもとに、子どもたちがめざすビーミーっ子の姿を各学級・各学年で具現化し、学年目標とする。 D：学校外の教育力を活用し、多様な生き方・考え・表現にふれさせる場を設定する。 E：「あかつき」「こころはばたく」「心きらめく」「心ときめく」を活用して道徳・人権教育の充実を図る。		
④コミュニケーション能力の育成を図る	〇学校評価アンケート（職員）の教科学習「体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、自ら学ぶ力や思考力を高める指導方法の工夫ができている」の項目で研究の成果を問い、肯定評価8割以上をめざす。 〇他校の先生より研究会アンケートにおいて「対話的」をキーワードに肯定的な評価をめざす。	A：研究テーマ「人とつながり、課題解決に向かう子どもをめざして～書く活動を通して、子どもたちの思考を見とり・高める～」に沿った授業づくりを行う。 B：学習の中に「異学年交流」や「地域の方々との交流」を取り入れ、身につけた力を活用する場の設定を行う。 C：一人一授業を公開し、全職員で授業力向上に努める。 D：研究会で対話的な学習が効果的に作用している学習場面を公開する。		
⑤家庭・地域との連携を図る	〇学校評価アンケート(職員)学校運営「学校施設を地域の活動のために開放したり、ゲストティ―チャ―を活用する等、地域と児童が共に学ぶ環境づくりや授業づくりをしている」の項目で9割の肯定評価を維持する。	A：三田型コミュニティスクールの推進を図るために、学校地域運営協議会を年間を通して計画的に開催し、学校評価の項目や結果を共有する。 B：「ゆりのき子どもネットワーク」との連携を図るために窓口となる校内コーディネーターをおき、ネットワーク会議に参加する。 C：児童に地域行事に参加する意義を伝え、積極的に参加するよう呼びかける。 D：学校支援ボランティアと連携した授業の工夫を行う。 E：「めざす子どもの姿」を学級集会などで提示し、家庭での協力を求める。 F：市発行の「ひとり学びへの手引き」をもとに作成した「家庭学習の手引き」をガイドブックに綴じて保護者に配布し、啓発を行う。		